

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	千代田区外神田2-17-4
園名	保育室「愛の園」

1. 活動のテーマ

当園が開園以来継続して行っている教育活動の中の【英語】を活かしながら【ことば】についての探究活動を実施し、日認知能力の向上等の保育内容の充実を図ります。

<テーマの設定理由>

開園以来、月2回30分ずつの英会話教室の中で、子どものみならず保育士も共に参加して一緒に英語に触れて参りました。そんな中、外国人の保護者の方が数名いることから、お迎えに来ると英語で話しかけてみようするなど、英語への興味関心が高まってきていると感じます。今回はプレバレーションさんによる英語教室の中で生きた英語に触れ、日本語や英語など言葉への興味をもっと高めていけると思っています。またネイティブの保育補助も入り、外国の方との交流を深めて参ります。

2. 活動スケジュール

乳児は英語と日本語の絵本に触れ、違いについて知る機会を持つ。幼児は昨年度の活動を進めるなかで「英語を話すお友だちと英語で話をしてみたい」「英語で伝えるにはなんと言うんだろう？」という気持ちが高まってきた様子。両方のことばの違いや特徴への疑問を問いとして設定し、英語・日本語両方の歌の教材、絵本を用意して、ことばの違いに関して知る中で、それぞれの言葉をつかう人たちや、国、文化を探求していく。日本語や英語を話す保育者、講師それぞれが保育に入ることにより普段の生活の中で聞き、ことばの違いについて探求できるようにする。またその様子を写真や動画を使って記録する。活動が終わったあと、英語講師と外国人の保育補助を含めて振り返り、内容については掲示し保護者と共有する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

環境設定： ケアタイムの中で

準備物： 歌詞カード、動物フラッシュカード、動物鳴き声図鑑

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

1. 2歳児クラスでゆかいなまきばの歌を英語と日本語で歌ってみる。フラッシュカードの動物の鳴き声を聞き比べ、実際の鳴き声も聴いてみる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

ゆかいな牧場の絵を見ながら、保育者が歌い始める。すると興味を持った子が側に寄ってくる。英語でも同じように歌ってくれたるみ先生の歌に合わせて、首や体を揺らして楽しむ。子ども達も3番の絵を見て、「これなに？」と問いかける。「しちめんちょうー！」と知っているようで答える。「なんて鳴くかしてる？」と保育者が問いかけると、子ども達は知らない様子。るみ先生が「がぼがぼ」と知らせる。豚のイラストを指さしながら「これは？」と聞くと、「ぶた！」と答える。るみ先生が「oink oink!」と教えてくれた。るみ先生に英語で歌ってもらおうかと伝えると、うんうんと頷く。動物のフラッシュカードで馬が出てくると「うま！ひひーんだよ！」と答える。牛、豚、羊、あひる、にわとりを見せながら一つずつ鳴き声をるみ先生に教えてもらう。一人は、羊のるみ先生の泣き声を真似して「baa」と言う。もう一人はあひるの鳴き声を真似して「quack quack」と言う。次に動物の鳴き声の図鑑を見る。(動物の写真の横のボタンを押すと本物の鳴き声がする。)
「さっき何出てきたかな？」と問いかけると、一人が「これ」とにわとりを指さす。ボタンを押すとにわたりの鳴き声が聴こえる。一人は「cock-a-doodle-doo」と英語で発音する。ライオンの鳴き声では、「ガオー！」と言う。るみ先生が英語では「roar」だと答える。同じ動物の鳴き声を聴いてみても、聴こえ方が違うことがわかる。そうは、「パオーン」と答える。日本語の絵本等で日頃聞きなれている鳴き声で答える姿もあるが、るみ先生から教えてもらった鳴き声が先に声に出す子もいた。

5. 振り返り<振り返りによって得た先生の気づき>

ゆかいな牧場の曲を日本語と英語で聴くと、共通している「いーあいいーあいおー」と口ずさみ、手拍子やからだを揺らして参加する様子があった。「ぶーぶー」「もーもー」＝鳴き声と、言葉での理解をまだしていない面もあるのか、鳴き声の問いかけにはあまり反応がみられなかったが、保育者やるみ先生が発する鳴き声を真似て楽しむ様子があった。鳴き声を英語で覚えて声に出す子もいたので、日頃るみ先生が英語で絵本やフラッシュカード等で関わってくれている影響があるのかと思った。

